2013 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準４	教育内容・方法・成果
中項目　4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標､学位授与方針および教育課程の編成･実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	・博士課程前期課程の教育研究上の目的 本研究科博士課程前期課程は、21 世紀のアジアを捉える切り口として｢アジアの現代化｣と｢アジアの伝統規範の再生｣を軸にして、アジア諸地域に共通する問題に関する理解と洞察力を深め、アジア地域研究に関する深い学識を修めた、国際的な広い視野に立脚した研究能力及び高度に専門的な職業能力を有する人材の育成を目指しています。 ・博士課程後期課程の教育研究上の目的 本研究科博士課程後期課程は、前期課程の 2 つの視点「アジアの現代化」と「アジアの伝統社会の再生」を踏まえ、アジア地域研究に関して幅広く深い学識を修め、国際的に認知・評価される高度な専門性と実践力、及び高度な研究能力・職業能力を有し、アジア地域研究の専門家としてグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。 ・教育研究上の目的に基づいて、以下のような「学位授与方針」（ディプロマ・ポリシー）が定められている。 博士課程前期課程のディプロマ・ポリシー 本課程は、所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則り審査のうえ合格と認められた者は、以下のような能力を備えていると判断し、修士(アジア地域研究)の学位を授与します。 1. アジア地域研究に関する学識を修めている。 2. アジアの現代化とアジアの伝統規範の再生について高い問題意識を持っている。 3. 国際的な広い視野に立脚した研究能力を身につけている。 4. グローバル社会の一員としての使命感と責任感に裏付けられた高度な職業能力を有する。 ・博士課程後期課程のディプロマ・ポリシー 本課程は、所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則り審査のうえ合格と認められた者に対し、以下のような能力を備えていると判断し、博士(アジア地域研究)の学位を授与します。 1. アジア地域研究に関する専門性の高い学識を修めている。 2. アジアの現代化とアジアの伝統規範の再生についてより高度な洞察力を持っている。 3. アジア地域研究の専門家として国際的に認知・評価される研究能力を身につけている。 4. アジアを舞台に活躍できる高度な専門性と実践力を持ち、国際的に認知・評価される職業能力を身につけている。
4-1-2	教育目標・学位授与方針をふまえ、以下のような「教育課程の編成・実施方針」（カリキュラム・ポリシー）が定められている。 博士課程前期課程のカリキュラム・ポリシー 本課程は、アジア地域研究に関する専門教育を実施し、国際的な広い視野に立脚した研究能力と高度な職業能力を有する人材を育成するため、以下のような特色をもった教育課程を編成・実施します。 1.専攻科目はディシプリンを重視し、社会科学分野と人文科学分野の 2 つに大別し、前者を政治研究、経済研究、社会研究の 3 専攻、後者を歴史研究、文化研究、芸術研究の 3 専攻の全部で 6 専攻に分け、アジアに共通する問題群を実証的に研究させる。 2.専攻科目には演習科目を配し、学生の研究テーマに即した指導教員の下で、専門分野に関する研究能力を向上させ、論

	文としてまとめさせる。 3.専攻科目には講義科目を各 2 科目ずつ 12 科目配列し、専攻に隣接する分野に関する学識を深め、学際的な広い知識を身につけさせる。 4.地域調査方法論などの関連科目を配列し、フィールドワークをはじめとする高度な研究方法を身につけさせる。 5.研究対象地域への留学やフィールドワークの実施を奨励し、当該地域の実証研究に不可欠な情報収集とともに国際的な視野に立脚した洞察力を深めさせる。 博士課程後期課程のカリキュラム・ポリシー 本課程は、アジア地域研究に関する幅広く深い学識を修め、アジア地域研究の専門家として国際的に認知・評価され、グローバルに活躍できる人材を育成するため、以下のような特色をもった教育課程を編成・実施します。 1.専攻科目はディシプリンを重視し、社会科学分野と人文科学分野の 2 つに大別し、前者を政治研究、経済研究、社会研究の 3 専攻、後者を歴史研究、文化研究、芸術研究の 3 専攻の全部で 6 専攻に分け、アジアに共通する問題群を実証的に研究させる。 2.専攻科目は演習を中心とし、学生の研究テーマに即した指導教員の下で、専門分野に関する研究能力を向上させ、アジアに共通する問題群を実証的に研究させる。 3.指導教員のもとで研究論文作成に取り組み、国際的に認知・評価される水準の博士論文をまとめさせる。 4.専攻に隣接する分野に関する学識や高度な研究方法の獲得をめざす科目を配し、学際的な見識を深め、研究能力を高めさせる。 5.研究対象地域への留学やフィールドワーク、共同研究プロジェクトへの参加を通じて、当該地域に関する高度に専門的かつ実践的な研究を推進させる。 なお、科目区分と必修・選択の別および単位数は明示している。
4-1-3	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『CROSSING』、ホームページ等で大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。 しかし、周知の有効性についての検証は不十分である。
4-1-4	大学院創設以来、学生アンケートを元に随時カリキュラムの検証作業を行ってきた。2013 年には、多様化する学生のニーズに応えるため、2 度目のカリキュラム改定を行った。 研究科委員長は責任者として、教務・広報委員会は組織として、各方針の適切性の定期的な検証作業を分担している。

【効果が上がっている事項】

4-1-1	教育研究上の目的に基づき、ディプロマ・ポリシーが明示されている。
4-1-2	カリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラムが編成されている。
4-1-3	
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	学生への「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」の周知度を確認する必要がある。 『大学院履修要項』に「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」を記載する必要がある。
4-1-4	

Ⅲ　本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

『CROSSING』、『大学院履修要項』、大学院ホームページ、学生アンケート

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014～2018）	学生への「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」の周知度を定期的に確認し、問題点がある場合は改善を図る。		→ → →					

14 年度 目標	「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」の周知度の確認	90%以上の周知度を達成する。	→ → →					